

知的障害のある児童生徒の言語能力を育成するための要点

「豊かな言語環境」と「表現を受け止めてもらえる安心感や関係性」の中で、児童生徒の日常生活や社会生活、豊かな体験との関連をもたせながら、言葉と体験、言葉と動作、言葉と事物、言葉と言葉をつなげたり、言葉や表現を拡充したりする学習活動や行為を通して、気持ちや考えを他者に伝えたり、共有したりする機会を意図的に設定していく。これらの実践（取組）を積み重ねることを通して、表現する楽しさや分かってもらった喜びを味わったり、表現したいという気持ちを育てたりする。

